

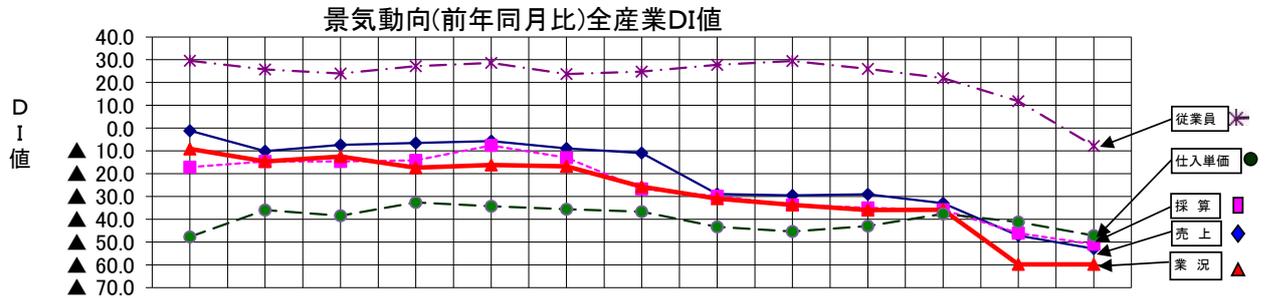
早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 4月分

【4月の概要】 新型コロナウイルスの影響が深刻、先行きもさらに厳しい状況に

3月の業況判断に比べると、売上D I、採算D Iともマイナス幅が増加。業況も前月同様の低水準となっている。仕入単価D Iはマイナス幅が増加し、従業員D Iは人手不足から過剰局面に転じた。

先行きの見通しについては、3月に比べ、売上D I、採算D I、業況D Iはマイナス幅がさらに増加し、仕入単価D Iはマイナス幅が減少、従業員D Iは人手不足から過剰局面に転じた。

生活必需品等を扱う一部の業態以外は、新型コロナウイルス感染拡大による影響で大変厳しい状況にある。リーマンショック時を上回る深刻な状況であり、早く収束しないと一層深刻な状況に陥ることが懸念される。



【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

	2019年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2020年4月
売上	▲ 1.1	▲ 10.1	▲ 7.3	▲ 6.5	▲ 5.7	▲ 8.9	▲ 10.9	▲ 28.9	▲ 29.5	▲ 29.0	▲ 33.0	▲ 47.1	▲ 52.9
採算	▲ 17.1	▲ 14.6	▲ 14.6	▲ 14.1	▲ 7.6	▲ 12.9	▲ 26.7	▲ 29.9	▲ 33.7	▲ 35.0	▲ 35.8	▲ 46.1	▲ 51.0
業況	▲ 9.1	▲ 14.6	▲ 12.5	▲ 17.4	▲ 16.2	▲ 16.8	▲ 25.7	▲ 30.9	▲ 33.7	▲ 36.0	▲ 35.8	▲ 59.8	▲ 59.8
仕入単価	▲ 47.7	▲ 36.0	▲ 38.5	▲ 32.6	▲ 34.3	▲ 35.6	▲ 36.6	▲ 43.3	▲ 45.3	▲ 43.0	▲ 37.6	▲ 41.2	▲ 47.1
従業員	29.6	25.8	24.0	27.2	28.6	23.8	24.8	27.8	29.5	26.0	22.0	11.8	▲ 7.8

売上D Iは5.8ポイント、採算D Iは4.9ポイント、仕入単価D Iは5.9ポイントマイナス幅が増加。業況D Iは変動なし。従業員D Iは19.6ポイントマイナスとなり人手不足局面から一気に過剰局面に転じた。

全産業平均D I - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
2月	▲ 15.6	▲ 22.0	▲ 29.4	▲ 27.5	22.0
3月	▲ 52.0	▲ 54.9	▲ 59.8	▲ 20.6	2.9
4月	▲ 64.7	▲ 62.8	▲ 68.6	▲ 17.7	▲ 10.8

先行き見通しでは、売上D Iが12.7ポイント、採算D Iは7.9ポイント、業況D Iは8.8ポイントのマイナス、仕入単価D Iは2.9ポイントのプラス、従業員D Iは13.7ポイントマイナスとなった。

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	塗装	今のところ新型ウイルスの影響を受けていないが、今後影響が出ると思う。先行き不透明。
	設備工事	リーマンショック時のような状態が続けば、夏場から来年にかけて業況の悪化が予想される。
製造業	食品	3月中旬から輸出の注文が激減。学校休校の影響で行事用和菓子がキャンセルとなっている。
	工具製造	米中貿易摩擦にコロナショックが追い打ちをかけた。足元は微減だが今後の景気動向が心配。
卸売業	日用雑貨	生活必需品を扱う当社は売上を伸ばしている。この状況がしばらく続くと思われる。
	水産物	総需要の減少から、今後は少ないパイを奪い合う競争激化が予想される。
小売業	自動車	国内自動車メーカーの製造工場の稼働が一部止まり、新車の納期遅れが発生している。
サービス業	レストラン	今後の展開によっては業界全体が破壊される恐れがある。政府による思い切った政策を望む。
	運輸	リーマンショック時と比較すると難易度の高い対応が求められている。
	タクシー	3月4月の営業収入が前年比44%。何時倒産してもおかしくない状況。